

《ご挨拶》



東京科学大学
副学長 山脇 正永

二〇二四年十月より東京科学大学 副学長（融合教育推進担当）を拝命しております山脇正永と申します。また私は、二〇二一年度より医学科教育委員長を務めております。

医学教育における解剖学実習は、未来の医療を担う学生たちが人体の構造を深く理解し、医師としての基礎を築くために欠かせない学びの場です。この貴重な教育の機会が可能となつているのは、ご遺体を提供して下さる皆様とご家族のご理解・ご厚意によるものです。教員一同の総意として、また医学科教育委員長として、心から感謝申し上げます。

解剖学は現代医学において、人体の構造を科学的に理解するための基盤であり、幅広い医療分野を支える重要な役割を果たしています。まず、外科手術では正確な解剖学知識が欠かせません。手術中の臓器や血管、神経の位置を正確に把握することは、患者の皆さまの安全を守る上で必須です。私自身も四十年ほど前に本学の旧解剖実習室で初めて実習を行った時の厳粛で静謐な気持ちを今でも記憶しています。

私の専門とする脳神経内科も解剖学と密接に関連しています。解剖学は脳・神経の構造を学ぶ基礎科学であり、脳神経内科は脳・神経系の疾患を診断・治療する臨床医学の分野です。解剖学的知識は、神経系の機能や病態を理解するための土台であり、脳、脊髄、末梢神経、筋などの構造や、それらがどのように機能しているかを正確に把握すること、疾患の発症部位や重症度を特定できます。また、神経系疾

患の診断に用いる神経診察や画像診断（MRI、CTなど）、手術、治療でも解剖学的知識が不可欠です。私自身、今でもオフィス机の座右に解剖学の教科書を常備してあります。解剖学は私にとっても生涯にわたり脳神経内科医として疾患の理解と治療を行う上で欠かせない学問となっております。

東京医科歯科大学は東京工業大学と統合し東京科学大学となりました。今後、医学と工学の連携及び医工融合がより一層充実してゆきます。医工融合教育においても解剖学は、医療機器や治療法の開発に不可欠な基盤として重要です。たとえば、人工関節や手術ロボットの設計では、関節の動きや筋肉の位置を正確に理解する必要があります。また、内視鏡やカテーテルのような機器は、狭い血管や複雑な臓器の形状に適応する設計が求められます。さらに、解剖学の知識は、医療従事者との円滑なコミュニケーションを可能にし、臨床現場のニーズを的確に反映した医療機器・製品の開発に寄与します。このように、解剖学は医工連携を進展させるための共通言語であり、技術と医学を結びつける重要な役割を果たしています。解剖学実習において学生には、最先端の医学・医療と結びついた知識を吸収してもらいたいと思っています。

ご献体いただく方々及びご家族にとってご遺体をご提供いただくという決断は、計り知れない思いが伴ったものであったと拝察いたします。その背景には、未来の医療の発展を願い、次世代の医療人を育てることへの深いご理解と、社会全体への貢献という高尚なお考えに基づいたものと思っております。この崇高な意思は、私たち教育者にとっても大きな励みとなり、学生たちと共に真摯に学びの場に臨む姿勢を改めて強くさせていただきます。

学生たちは実習を通じて、人体がいかに精緻であるか、そして一つ一つの組織や器官が連携し合い、生命という奇跡を形作っているのかを学んでいます。また、それと同時に、ご遺体を通して学ぶというこ

とが決して当たり前のことではなく、多くの方々のご意思と善意に支えられていることを深く理解していることと思います。彼らにとって、単に医学的知識を習得するだけではなく、医師としての倫理観や人間性を培う機会となっています。私たち教員もまた、この学びの場が持つ重みを強く感じています。教科書や模型では得られない「生きた知識」を学生たちに伝えるとともに、ご献体がかつて一人の尊い人生を生き抜かれた方であることを忘れず、その尊厳に敬意を払いながら教育に取り組み責任を改めて胸に刻みました。皆様のお気持ちに報いるためにも、学生たちが一人前の医療人・医学者として成長し、患者さんに寄り添える医師となれるよう、今後も全力を尽くして指導にあたる所存です。

《ご挨拶》



東京科学大学病院
首席副病院長 新田 浩

献体の会の会員の皆様におかれましては、平素より医学・歯学教育および研究に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。私は、東京科学大学の首席副病院長を二〇二二年度より務めております新田浩と申します。

二〇二一年十月、東京医科歯科大学の歯学部および医学部附属病院が統合され、「東京医科歯科大学病院」として新たに発足いたしました。これに伴い、旧歯学部附属病院は「歯系診療部門」となり、旧病院長は「首席副病院長（歯系診療部門長）」という名称に変更されました。私は、二〇二二年度から二〇二四年度にかけて、築地本願寺で開催された解剖体追悼式に出席させていただきました。二〇二二年および二〇二三年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学内者のみでの開催となり、式典の様子はオンラインで配信されました。一方、二〇二四年度にはご遺族の皆様にもご出席いただく形で執り行うことができました。追悼式においては、献体された方々の崇高なご精神と、ご遺族様のご理解と寛容に対し、深甚たる感謝と敬意を改めて抱きました。この場をかりて、改めて心より御礼申し上げます。

私自身が人体解剖実習を経験したのは四十年以上前のことですが、その記憶は今も鮮明に残っています。人体解剖実習は二年次に実施されますが、この実習を通じて、学生ながら、死の尊厳を深く実感し、厳粛な気持ちになったことを今でも覚えております。人体解剖実習は医学・歯学教育において極めて重要な授業の一つであり、私自身、実習

を通じて厳しい学問への覚悟を固めるとともに、生涯にわたり研鑽を続ける医療人としての基盤を築くことができました。

現在、歯学科では五年次の臨床実習に入る直前に「頭頸部臨床解剖」という授業を実施しています。この授業では、これまでに学んだ歯科医学の知識を活かしながら、改めてご遺体を解剖させていただき、これにより、実際の患者さんを診療する臨床実習に臨む心構えをより一層強化することができます。

このように、人体解剖学実習は単に人体の構造を理解するためだけではなく、人間の尊厳や医療に対する責任感を直接感じ取る貴重な教育機会です。近年、バーチャル技術を活用した解剖学実習が導入されていますが、リアルな解剖実習は不可欠であると確信しています。

ここで、私の専門分野である歯周病についても触れたいと思います。二〇一一年五月には、献体の会の学術講演会で「歯周病は万病の元！からだの健康はお口の健康から」というテーマでお話しさせていただきました。歯周病はむし歯と並んで代表的な口腔疾患であり、歯の欠損とも密接に関連しています。重度の歯周病患者は、心疾患、脳血管疾患、糖尿病になるリスクが健康な人の約三倍になると言われています。さらに、歯周病が進行し抜歯に至ると、歯の欠損が生じます。歯が失われると、要介護の原因である高齢による衰弱、転倒、認知症の頻度が高くなります。歯がたくさんあって（八十歳で歯が二十本）、よく噛んで食べる人ほど、ADL（人を頼りにせず、自分で生きていく能力）が高いことがわかっています。もう歯が抜けてしまっている方ががっかりしているかもしれませんが、安心してください。義歯を入れて噛めば、脳の血流量が増え、また、心臓のはたらきが良くなります。全身疾患・要介護の予防には歯周病の治療と予防そして歯がなくなつた場合の適切な義歯使用が重要です。

歯周病の主な原因は、歯に付着した「プラーク（歯垢）」です。プラークは食べかすではなく、細菌の塊です。歯に付着した細菌が毒素

を出し、歯茎が赤く腫れます。これが歯周病の始まりです。歯周病が進むと歯と歯茎の間に隙間ができ、膿をたくわえる「歯周ポケット」ができます。初期は痛みがないので、知らないうちに病気が進み、歯を支えている歯槽骨が溶け、歯がぐらぐらし、やがて抜けてしまうのが歯周病です。

歯周病の治療においては、患者さん自身が行う「プラークコントロール」が重要です。これは、歯ブラシやデンタルフロス、歯間ブラシを使って口腔内を清潔に保つことであり、日常的なケアの基本です。一方、歯周病が進行して歯周ポケットが深くなり、そこに歯石が付着している場合は、歯科医院で専門的な治療を受ける必要があります。歯科医師や歯科衛生士による歯周ポケット内のプラークや歯石の除去は、家庭でのケアでは対応できない部分を補う重要な治療です。そして、歯周病は再発しやすい疾患であり、進行しても痛みを感じないことが多いため、治療後も必ず定期検診を受けることが大切です。たとえ痛みなどの自覚症状がなくても、定期的に歯科医院を訪れることで、早期発見や適切な対処が可能になります。「歯周病は万病の元！からだの健康はお口の健康から」という言葉を心に留め、日々のケアと定期的な検診を習慣化してください。

最後になりますが、献体の会会員の皆様とご遺族の皆様方の末永いご繁栄とご多幸をお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

《東京医科歯科大学・東京科学大学関係行事》

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

令和六年二月十五日（木）、十六日（金）の二日にわたり、東京医科歯科大学M&Dタワー二十六階のファカルティラウンジにおいて、第四十回東京医科歯科大学解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式が執り行われました。新型コロナウイルス感染症の位置づけは、昨年五月に「五類感染症」に引き下げられましたが、高齢者等の重症化リスクの高い方への感染を防ぐ体制は継続して必要と考えられることから、参加されるご遺族に対しては、二日間の午前・午後に分けてご来場いただき、教職員も限られた者のみ参加了しました。

それでも、部屋いっぱいには春の気配が漂うのは、ラウンジの南側が全面ガラス張りだからでしょうか。百二十五メートルの高さからは、直下のJR御茶ノ水駅から遠くにかすむ皇居東御苑までが一望でき、高層、低層、様々なビルがひしめく景色は圧巻です。この景色に寛いで語り合うことが新しいアイデアや共同研究を生み出すきっかけとなるとして、折々に、このラウンジでは、医学研究発表会が行われ、最新の研究成果を示した大型ポスターを囲んで若手研究者や大学院生



が議論を交わしたり、異なる分野の研究者達が集い、直接話をして交流を深めたりするイベントが行われています。今日は、この研究の萌芽の場にご遺族控え席と式場が設置されました。式場の正面には白い祭壇が設置され、両側には胡

蝶蘭の花を中心に濃い紫のトルコ桔梗、銀朱のバラ、かすみ草が豊かに生けられています。祭壇には献体成願者のお名前の札が貼られ真白な布で包まれた御骨箱が据えられています。案内者の声にお一組のご遺族が祭壇の前に並び、代表が前に進みます。全員が御骨箱に深く一礼した後、初めに祭壇の向こう側に立つ教員が献体成願者のお名前に続いて感謝の言葉を述べます。そして、文部科学大臣感謝状が贈呈されます。御骨箱を捧げ持ち、ゆっくりと祭壇の前に回って姿勢を正し、ご遺族代表の手へと御骨箱が受け渡されます。その後、脇に設置された長机で担当者が御骨箱を濃紺の専用バッグに、感謝状を保管用の丸筒に収めます。

今回、御骨箱を祭壇に据える係、感謝状を筒に収める係を担当したのは本学医学部・歯学部二年生から選ばれた学生たちです。白手袋をはめ、筒にきれいに収めようと、真剣に賞状を細く丸めている姿をご遺族の方が温かく見つめています。

式場に安堵の思いがゆっくりと満ちる中、御遺骨返還式及び感謝状贈呈式は滞りなく終了しました。



学生 追悼の辞

東京医科歯科大学 学生代表

医学部医学科二年 篠田 晃希

はじめに、ご遺骨返還式にあたり、献体して下さった方々並びにご遺族の方々に深く感謝の意を表し、謹んで故人に哀悼の意を捧げます。私たちは、五月から七月の約三か月間、解剖学実習室でご遺体と真摯に向き合いながら、この場では語りつくせないほど多くのことを学びました。また、献体して下さったお一人おひとりのいのちの尊さ、そして、医療従事者を目指す我々へと託された想いを深く感じ、身の引き締まる思いになるとともに、改めて医療の道を歩んで行く決意を抱きました。短い文章ではありますが、この場をお借りしまして、私自身が実習を通して学んだことを述べさせていただきます。

約三か月間の実習を通して学んだことは、教科書の図や、人体標本ではなく、患者さんお一人おひとりに向き合うことの大切さです。私たちは、解剖学実習と並行して座学による解剖学も履修しております。座学で用いる教科書には、典型的な人体の構造が掲載されております。もちろん、典型的な人体の構造に対する理解は医療従事者を目指すうえで欠かせません。しかし、私たちが医療従事者として関わるのは教科書の図でも、人体標本でもなく、患者さんお一人おひとりです。真に患者さんの健康に貢献するためには、患者さんご本人と向き合い、対話し、理解することが不可欠です。私にとって、解剖学実習は、医療従事者を目指す決意をしてから、教科書や標本ではなく、一人の方と向き合う初めての経験となりました。

解剖学実習の初日、前日の深夜まで教科書や実習手順書を読み込み、ご遺体やご遺族の方のご期待に沿えるよう、十分に準備をして臨みましました。実際にご遺体と向き合うまで、私の頭の中では、教科書や実習

書から人体がどのような構造で、どのように実習を進めていくかが、スムーズにはつきりと流れているような感覚がしました。

しかし、実際に実習を進めていくと、そのような感覚は一瞬のうちには立ち消え、一人の方と向き合うということがどれほど難しいことであるかを痛感しました。体の大きさや血管の走行、筋肉の付き方、臓器の位置など、大まかな構造は教科書通りであるかもしれませんが、それらが厳密に教科書や実習書と一致するということはありません。私は、教科書や実習書で理解したつもりになり、ご遺体と向き合うことの大切さを考えられていませんでした。

そのような体験を経て、私は、「教科書や実習書で確認したから、ご遺体ではこうであるはずだ」という考えから、「教科書や実習書ではこうだが、ご遺体ではどうか」という考え方にシフトするようになりました。回数を重ねるごとにご遺体への理解が深まっていき、教科書や実習書とご遺体がどう異なっているか、という点をよく考えるようになりました。献体して下さった方はどのような方だったのか、どのような人生を送られたのかと想いを馳せることもあり、一方で解剖学を学びながら、もう一方でご遺体と向き合い、医療従事者としてのあるべき姿勢についても深い学びを得ることができました。

私は、患者さんを見る臨床医に憧れて医学部に入学しました。臨床医は患者さんの命、ひいては人生を預かる職業であり、預けてくださった患者さん一人ひとりに強い責任をもって真摯に向き合うことが求められます。今回の実習で献体して下さった方は、私に人生を預けてくださった初めての方です。臨床医を目指す身として、私は献体して下さった方、そしてご遺族の方々が託された想いに応え、この国の福祉に広く貢献できるような医師を目指し、日々邁進していく所存です。

末筆ではございますが、改めて献体して下さった方々に心より哀悼の意を表すとともに、ご遺族の皆様のおますますのご健勝をお祈り申し上げます。追悼の言葉とさせていただきます。

東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会ならびに 第四十五回東京医科歯科大学献体の会総会

令和六年六月三十日(土)午後二時より、東京医科歯科大学M&Dタワー二階の鈴木章夫記念講堂において篤志献体活動の報告会ならびに第四十五回東京医科歯科大学献体の会総会が行われました。

前日の雨も上がり、暑さの中にも涼やかな風が感じられる好天のもと、会員一三四名、同伴者十九名の参加がありました。

総会に先立ち、運動器機能形態学講座、二村教授(にむら)の司会で献体活動の報告会が行われました。全員が黙祷の後、解剖学教室の教員として、臨床解剖学分野の秋田教授、細胞生物学分野の中田教授(なかた)、形態情報解析分野の星教授(ほし)の紹介がありました。続いて、秋田教授より献体の会の現況報告があり、令和五年度の献体成願者は八十九名、令和六年三月末の生存会員数は二二二名であること、献体時の引き取り可能な範囲が決定されたことが説明されました。また、献体の会関係行事として篤志解剖全国連合会団体部会・大学部会合同研修会に参加したことなどが述べられました。

続いて総会に移り、献体の会の岡本祐子編集委員の司会のもと、片野尚子献体の会理事の開会の辞に続き、佐藤達夫献体の会会長の挨拶がありました。令和元年以来の総会とあって、初めて参加した方も、久しぶりに参加した方も、佐藤会長の顔に注目する中、「皆さん、おはようございます。もう、お昼もだいぶ過ぎていますが」とユーモアたっぷりに話し始めると、会場の空気も一気に和らぎました。齢八十を過ぎての日々の苦勞が語られるうちに、総会中止となっていた五年の空白が満たされてゆき、佐藤会長ご自身から献体活動に多大なる貢献をされた功績により第十五回篤志献体賞を受けたことが語られると、会場から大きな拍手が起りました。

次いで、秋田教授より、献体の会会則の見直しについての説明が行われました。東京医科歯科大学は、令和六年十月一日に東京工業大学と統合し、東京科学大学となります。大学名の変更に伴い、「東京医科歯科大学献体の会」を「東京科学大学献体の会」に変更することが多数の拍手をもって承認されました。また、献体の会総会に関する質疑も活発に行われ、会員からは、佐藤会長が献体の会を牽引してくれたことへの感謝が述べられると、佐藤会長からは、東京医科歯科大学のご遺体受入からご遺骨返還までの対応は国内随一と自負しているが、それは献体の会会員の皆様のおかげであると応じられました。

結びに、片野理事より、本日の総会によって、献体の会の活動が意義深いものであることが確認でき、解剖学教室の教職員の皆様への感謝の気持ちを新たにすることが述べられました。献体の会会員が共に力を合わせて、未来の医師・歯科医師の育成、医学の発展、福祉のために貢献してまいりましょうとの呼びかけがあり、午後三時に総会は終了しました。



令和六年度 東京科学大学解剖体追悼式

令和六年十月二十四日木曜日午後一時より、築地本願寺において東京科学大学解剖体追悼式が執り行われました。

爽やかな秋の日差しの中、敷地に足を踏み入れると、花崗岩で造られたアーチ型の屋根を持つ本堂が左右に翼を広げたかのようにそびえ立ち、その独特の存在感はアジア・インド・シルクロードの別世界を思わせるものでした。本堂内の祭壇には、高さ三メートルの「解剖献体者之霊」の標柱が厳かに置かれ、その両脇には大輪の蘭や鮮やかな花々が飾られ、さらにピラミッド状に盛られたオレンジやリングが彩りを添えていました。

ご遺族や大学関係者、学生二〇〇名が着席する中、大竹尚登理事長と田中雄二郎学長が入場し、式が始まりました。式の冒頭では、今年度に誓願成就された二九五名の氏名が奉読されました。全員で黙禱を捧げた後、田中学長による追悼の辞、ご来賓である医科同窓会理事長・林洋先生のご挨拶がありました。また、医学部代表の加納彩瑛さんからは、解剖学実習を通じて学び得たこと、献体者の崇高なご意思に対する深い感謝、そして今後も勉学に励む決意が述べられました。その後、参列者全員が一人ずつ白菊を祭壇に捧げ、午後二時に式は閉会しました。

その後、本願寺のご厚意により法要が執り行われました。まず、本堂正面の金色の四枚の折り戸が開かれ、阿弥陀如来像が厳かに姿を現しました。雅楽の演奏では、笙が奏でる天上の音色が響き渡り、力強い箏の低音と、龍笛の軽やかな旋律が調和し、荘厳なひとときが流れました。

続いて、参列者は浄土真宗本願寺派の作法に従いお焼香を行い、その後、築地本願寺宗務長の中尾史峰様よりご法話がありました。ご本

尊である阿弥陀如来様が、人生の終わりに現れ、優しく仏として迎え入れてくださる」というお話は、参列者の心に深く響きました。法要は滞りなく進み、午後三時に終了しました。

また、遠方やご事情により参列が叶わない方々のため、追悼式と法要の様子はインターネットで同時配信され、多くの方々がオンラインで思いを寄せられました。

追悼の辞



東京科学大学

学長

田中 雄二郎

本日ここに、国立大学法人東京科学大学として初めての解剖体追悼式を挙行するにあたり、解剖学・病理学並びに法医学解剖に、ご遺体を捧げてくださいました二九五名の方々に対し、謹んで哀悼の意を表すると共に深い感謝の念を捧げるものであります。

人体解剖学は、医学・歯学の次世代を担う医療人の育成に当たって誠に重要な意義を持っております。

解剖学実習では、学生はご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を習得しつつ、初めて、死という逃れようのない生命の尊厳に直面します。これを機に、学生は「自分自身が快適に生きたい」という受動的・利己的な意識から、「自分以外の人が健やかに生きるために」という能動的・献身的な思念に変わり、自分たちは「世のため人の為に医学・歯学の道で研鑽を積むのだ」と、医療人としての決意を新たに、学んでいくこととなります。

病理解剖では、担当の医療チームが現代医学の叡智を駆使し、全力を挙げて治療に臨んだにもかかわらず、効を奏さず、ご遺族の願いも虚しく、帰らぬ人となったご遺体を解剖させていただきました。ご遺体より提供された病巣や臓器の精査と治療結果から知り得る新しい知見は、同じように悩む他の大勢の患者さんの治療あるいは発症予防に役立てることができる貴重な示唆を与えてくださいます。

また、法医学解剖は、黙して語らぬご遺体の死因を特定し、時には犯罪性の有無を明らかにして、社会の秩序の維持に役立つものであり

ます。

このように、それぞれのご遺体は、それぞれのお立場で医学・歯学の進歩に光明を投げかけて下さり、そして人間教育の上で、何ものにも変えがたいご教示をいただき、学生を啓発してくださいませ。

医学・歯学の発展のためとはいえ、自らご遺体を献体される崇高純粋な精神、そしてご遺族の示される深いご理解とその寛容なお心に、私どもは改めて深甚なる感謝と敬意を表する次第です。

本学は旧東京医科歯科大学と旧東京工業大学が統合し今月一日発足いたしました。新大学としてさらなる高みを目指しておりますが、此処に医学・歯学の教育・研究に一層の精進を重ねることを、固く誓うものであります。

東京科学大学は、菊薫る本日、ご遺族並びに献体の会会員の方々、そしてご来賓の皆様とともに、ご遺体を賜りました故人の方々に偲び、ここに謹んで追悼の辞といたします。



来賓追悼の辞



東京科学大学医科同窓会

理事長 林 洋

本日の東京科学大学解剖体追悼式に臨み、東京科学大学のそして旧東京医科歯科大学の医療系同窓生を代表して、追悼の言葉を申し上げます。

学問としての医学、そしてその成果を社会に還元する医療にとって、最も基本となる知識は人体の構造と機能についての理解であり、それゆえ、人体解剖なくして医学、医療は存在し得ません。最近の臨床医学におけるX線、超音波、MRI等を用いた形態学的診断の進歩には目を見張るものがありますが、その大元にあるものは、人体解剖を通じて得られた人体の構造についての知見であります。また一方、昨今の科学技術の進歩は目覚ましく、CG、すなわちコンピュータグラフィックスを駆使した解剖学授業や、手術前における外科医の術式検討など、従来では考えられなかったような進歩が、医学教育においても医療の現場においても当然のこととして利用されておりますが、これらとでも、大元のモデルは、人体解剖を経て得られた人体の構造に関する知見であります。

しかし人体解剖の対象はわれわれの身体そのものであります。亡くなられた後、ご遺体を人体解剖に提供してくださるといふ貴い御意志を持たれた方が必要です。そしてさらに、ご本人のご遺志だけではなく、ご遺族の皆様の、そして行政をふくむ社会のご理解があつてはじめて人体解剖が可能となります。このようなご献体者の崇高な理念、ご遺族のご理解とご協力、社会のご支援、これらすべてのお蔭をもち

まして、私共同窓生は大学在学中に人体解剖学を学ぶことができました。現在このように医療者として社会に貢献できていることも、すべては、ご献体された皆様を始め、ご遺族様、そして関係のあるすべての皆様のお蔭であると、心より感謝申し上げます。人体解剖が、そして献体が、次世代の健康に寄与したいというご献体者の尊い願望からなり、ご自分のみならず他者へも愛情を注ぎこまれるというご献体者の限らない優しいお気持ちに対して、私共はただただ、頭が下がる思いです。自らの死を医学・医療を学ぶものの精神の中に生かし、未来に蘇らせるといふ尊いご遺志をもつてご遺体を捧げられた方々、また深い悲しみの中で解剖にご理解を下さいましたご遺族の方々、心から御礼申し上げます。

最後になりますが、本日も列席のご遺族の皆様、献体の会の皆様方におかれましては、これからもお健やかで、お過ごし下さいますようお願い申し上げます。私共の追悼の言葉とさせていただきます。



学生追悼の辞

東京科学大学

医学部医学科二年

加納 彩瑛

初めに、ご献体してくださった方々、並びにご遺体を私たちに預けてくださったご遺族の皆様方に、東京科学大学の学生を代表しまして心より感謝申し上げますとともに、故人の方々に対し謹んで哀悼の意を表します。

解剖学実習は私にとって、人体の複雑さと奥深さを痛感させるとともに、様々な感情をもたらすものでした。私たちはこの実習を通じて解剖学という学問を学ぶだけでなく、医師・歯科医師として必要な倫理観を学び、患者様のかげがえのない命を預かる立場となることへの責任感と覚悟を改めて強く持つようになりました。

実習の前に教科書や講義を通じて学び理解したと思っても、実際に自分の目で見て手を動かすことは難しく、自分の学びが足りないと感じられることも少なくありませんでした。また、お身体にはお一人ごとにちがいがあり、その際に丁寧に観察し改めて文献にあたることで多くの新たな学びがありました。また、人体の精緻なつくりを目にする度に驚きと畏れを感じ、それまで以上に人体に対して謙虚な気持ちを抱くようになりました。実習を終え、人間の体は理解したと感しても完全に理解することのできないものであると感じています。医師・歯科医師となり責任を持って患者さんの治療や研究にあたる身として、私たちは真摯な姿勢で医学・歯学を学び続け、人体を理解しようとして努力し続けなければなりません。

また、実習中はご献体くださったお一人お一人の歩んでこられた人生や、ご献体くださったお気持ち、ご遺族の皆様のお気持ちに思いをはせる瞬間も多くございました。その中でも特に、最後の実習日にご

遺体を納棺させていただいた際にはご遺族の皆様のご亡くなられたご家族に対する思いが感じられ、この大切な場に私たちが立ち会わせていただいていることの重みが胸に迫り言葉が見つかりませんでした。

本日このような式典を迎え、私たちの実習がこれほど多くの方々の支えのもとに成り立っているのだと強く実感しております。改めて、このような機会をいただけた事に深く感謝申し上げます。解剖学実習は望んでも容易には再び得ることのできない経験です。医学・歯学を本格的に学び始めたこの時期に実習を通じて学んだことと抱いた気持ち、鮮明なまま持ち続け、一層身を引き締めて学び続けていこうと思えます。

最後になりましたが、ご献体してくださった故人の皆様を偲ぶとともに、ご遺族の皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。追悼の言葉とさせていただきます。



《篤志解剖全国連合会関係行事》

篤志解剖全国連合会
第四十七回団体部会・大学部会合同研修会ならびに第五十四回総会

令和六年三月二十日、沖縄県那覇市の沖縄県市町村自治会館にて、篤志解剖全国連合会第四十七回団体部会・大学部会合同研修会ならびに第五十四回総会が開催されました。また、同時にZOOMを用いたWEB方式でも開催され、現地、WEB合わせて全国から二百四名の参加者がありました。

団体部会・大学部会合同研修会は、八木沼洋行 篤志解剖全国連合会会長の会長挨拶で始まりしました。

今回の団体部会・大学部会合同研修会は、「皆で支える献体の未来」大学と献体登録者の立場から」というテーマで行われ、二名の講師による講演が行われました。講演の第一は、篤志解剖全国連合会副会長／明海大学歯学部解剖学・組織学分野教授 天野修 先生から「実担のワークショップから見た状況と課題」、講演の第二は、熊本白菊会会長 江富聡 様から「近年における一連の解剖体取り扱いに関する、



あつてはならない不適切事案への献体登録者からの意見「マインスをプラスに変える」と題して、近年発生した解剖体の取り扱いに関する事案に関して、大学側の対策、献体登録者側としての要望な



どについての話しおよび議論が行われました。

その後、続けて総会が行われました。総会は、天野修 篤志解剖全国連合会副会長の司会のもと行われ、三ツ林裕巳 衆議院議員、羽生田俊 参議院議員の挨拶（メッセージ）や、篤志解剖全国連合会の理事選出結果の発表、令和五年度会務報告、収支決算承認などについての報告、協議を終え、会は無事に終了しました。

佐藤達夫先生が篤志献体賞を受賞されました

今回の合同研修会の講演に先立って、献体事業に多大な貢献をされた、東京医科歯科大学名誉教授／東京医科歯科大学献体の会会長 佐藤達夫 先生に、日本篤志献体協会会長 坂井建雄 先生から、第十五回篤志献体賞が授与されました。

佐藤先生は長年にわたり、献体活動や解剖学の教育・研究に尽力され、献体の普及に貢献してこられました。賞の授与の際、佐藤先生からご挨拶があり、これまで関わってこられた献体運動や、開催県である沖縄の大学における活動についてのお話をされました。

佐藤先生の篤志献体賞受賞を心よりお祝い申し上げます。

《会員寄稿》

【随筆】

健体を献体

「どう生き」「どう逝くか」

3941

吉本 亮三

本誌の随筆に登録の翌年第二十八号から投稿しているので今回が二十三作目となって貴重な誌面をよこし続けてしまったと反省している。近年の投稿は段々少なくなって前号は一作品のみとなってしまった。そろそろ「お終いですよ！」との合図であろう。

終活の世代となっている。従前に記述した立教セカンドステージ大学で小谷みどり先生（現シニア生活文化研究所所長）の「死生学」を二〇一八年受講、最終レポート課題「最期まで自分らしく」生きたいか又は逝きたいかであった。従前より健康について留意し「どう生き」「どう逝くか」文献や雑誌・新聞のスクラップ等を続けてきたのでまとめることができた。

また修了論文についても同じ分野でまとめ、学年末の発表会にゼミの代表となって主任教授に「よかった」との評をいただいた。

「生き方」は、日野原重明先生の『あるがままに行く』の大エッセイはじめ、古くは貝原益軒『養生訓』に、そして永六輔『大往生』に死に方ってのは生き方です』等々から学んで実践してきた。

なかでも十五年間七〇〇回超える日野原先生のエッセイ『私の証・あるがままに往く』内なる自己見つめるとき、未来を担う人たちへ』は、すべての面で人生の指針となって自分の心の中に生き続けている。特に最終稿は「命ある限り書く」との記者との約束を守り口述筆記した秘書より届けられたとのことで、感銘を受けた。

急速に高齢化が進み、多死社会に突入している。迎える人、送る人

の思いが報じられ、各々示唆に富む言葉を残している。

文藝春秋二〇〇五年一月号『各界著名人五三人が望む理想の死に方 三笠宮殿下からダライ・ラマまで』鮮やかに生きるための心得』。そして文藝春秋二〇一一年七月号 研究・悔いなき三四人の見事な死の中で『ホスピスで見た一千人の死の一人』最高の最期の言葉はありがとう』

朝日新聞土曜別刷に『それぞれの最終楽章』に心にしみる含蓄のある素晴らしい楽章が奏でられている。少しだけ引用させてもらう。（夫婦）「ダメみたい。ステージⅣのbで、手術も無理だつて」「抗がん剤が効かなければ？」「三ヶ月くらいか」いつもとおりの淡々とした表情で話す妻、突然臍臓がん末期で余命三ヶ月「八ヶ岳山麓にある別荘のログハウスで過ごしたい」と言った。

（夫婦）「ねえ 人生どうだった？」すると、夫が即答した。「悪くなかったねえ」最期の夫婦の素敵な会話だ。

献体登録の「同意」求めた際、長男は、同意はしたが「何故？」の気色だった。先日「献体」のことを知りたいと言う。整理し残したい。その際には平成二十四年一月一日付けの「新たに想定される教育・研究・研修に関する同意書」についても話しておこう。

余命を告げられたとしても、その期間を精一杯健康に過ごして人生を全うしたい。

家族に話してはいないが、エッセイに記載し手帳にも挟んでいる西行法師の辞世とされているように逝きたい。

願はくは花のしたにて春死なむ

その如月の望月のころ

五月に植えたペランダのポット苗のゴーヤはすくすくと育ちガラス戸一面に広がり緑のカーテンとなって、葉を揺らしてさわやかな風を送り込んでいる。

（令和六年七月九日）

【随筆】

受動喫煙症

5941 金村 美千子

喫煙による健康被害は、医師によく知られている。ところが、受動喫煙による健康被害は、日本禁煙学会に所属している医師など一部の医師にしか知られていないようである。そこで、次の三点をお願いすることにした。

- 一、医学部で「受動喫煙症」を授業で取り上げてください。
- 二、大学で、受動喫煙の研究をしてください。
- 三、不特定多数の者が集まっている「集合住宅」での受動喫煙を防ぐために、行政は法改正に一刻も早く取り組んでください。

一点目の「医学部で『受動喫煙症』の授業が必要と考える」理由について述べよう。

無職のヘビースモーカーが昼夜を問わず喫煙して、どぎつい煙草臭が、どんどん私の部屋に入ってきたために、ニコチンで血管が収縮して我慢の限界の超激痛の頭痛・息苦しきで、何度も一〇番通報をした。

目は、ピリピリ鋭い傷みが続き、眼科へ行くと「角膜が荒れている」との診断で、日に何度も目薬を差し続けた。

のどは真っ赤になって強い痛みが続き、耳鼻科を受診すると、東大出身の医師が丁寧に診察をしてから「痛みの原因が分からない」とおっしゃった。

皮膚のかゆみが強くてたまらないので皮膚科を受診すると、「原因不明の蕁麻疹」と言われた。

日本禁煙学会が出している「受動喫煙症の分類と診断基準」の中に、「咽喉頭炎」が含まれている。また、日本禁煙学会編『禁煙学 第二版』に「受動喫煙症では様々な症状が出るが、頭痛・倦怠感・集中力低下・精神不安定・皮膚のかゆみなど、いわゆる化学物質過敏症様の症状を呈する人が少なくない」(p.90)と記載されている。しかし、ほとんどすべての医師が、受動喫煙症に関する知識をもっていないようである。

二点目の「大学での『受動喫煙に関する研究』の要望」について述べよう。集合住宅では、ベランダでの喫煙は、他人に被害を及ぼすと考えられている。また、真下の部屋に住む喫煙者によって、煙草被害がもたらされるとも考えられている。

しかし、私は、隣の無職のヘビースモーカー(I)からの煙草被害のみと捉えていたところ、その者が転出しても引き続き、どぎつい煙草臭が入ってくることから、隣と同時期に別の無職のヘビースモーカー(Y)が、斜め下の部屋にも引越してきていたことをつきとめた。戸や窓を閉めて部屋の中でたばこを吸っていても、隙間からたばこの臭いはどんどん外へ出ていき、他人の部屋にどんどん入るのである。Yのどぎつい煙草臭は、私が外廊下へ出ると、私の部屋・隣の部屋(真下にYが居住)・その先の部屋の三所帯の部屋の前に充満していた。

日本禁煙学会のホームページに掲載されているO理事から電話で聞いたところでは、「煙草臭は、二階上まで上る」とのことであった。

集合住宅での煙草被害について科学的に明らかにすることが、煙草臭で苦しんでいる人々を救うために欠かせないと考える。

三点目の「『集合住宅での受動喫煙防止のための法改正』への行政の取り組み」について述べよう。

集合住宅では、不特定多数の者が集まっており、他人への配慮など

眼中になく、やりたい放題のことをやる人々が集まっている。しかも、長期間その状態が続くのである。

改正健康増進法で、学校・行政機関の庁舎など不特定多数の者が集まる場所では禁煙と定められている。何故に、集合住宅において受動喫煙で苦しんでいる人々を見捨ててしまったのか、不思議である。

憲法第十二条・第十三条で、「公共の福祉」が規定されている。他人の基本的生存権を侵害してまで、喫煙の権利を行使することはできないのである。

二〇二四年三月十六日から新幹線でも全面禁煙になった。一刻も早く、行政の手で、集合住宅において受動喫煙で苦しんでいる人々を救っていただきたい。

【詩】

ひとりぐすき

2403 照井 きぬ

ひとりぐすき！
 ずくつとひとり生きてきた
 去るときは
 だれとも 顔を 合わさず
 だれとも ことばを 交わさず
 イメージ残して
 さつと 去りたい！

神サマ

私のねがいを
 叶えてください！

令和六年六月

【詩】

ファイナーまで心豊かに

6085 床嶋 まちこ

平均寿命は男性八十一歳で女性八十七歳ですが
 健康寿命は七十二歳と七十五歳
 一度限りの人生なら

ファイナーを迎えるその日まで

日常生活を健康に不自由なく暮らすのが理想

そのために今しておくことは何か

なんて考えることはありませんか？

晩年を豊かにするのは人それぞれですが

その中の一つに良き人間関係もあるでしょう

近所の方々の温もりのある関係

友人知人との心満たされる関係

子や孫との気持ち弾む関係

サークル仲間との気持ちがあっさりする関係

そのために居心地のいい場所を幾つも作っておく

歩きながらおしゃべりできるハイキング会

心を許せる友が何人もいる年金組合

描くだけでなく話に花が咲く絵手紙会

背筋を伸ばし軽快なリズムに合わせて踊るリズム会

書くのが億劫どころか愉しくなるペンの会

齢を重ねたら

一つでも多くの生き甲斐や居場所を持ち

一日一日をハッピー感をもって暮らす

人生のファイナーを

「ありがとう」で

締めくくられるように！

【俳句】

しみじみと 昔の味の 山葡萄

春の鴨 かも 居残り組が 池の中

人生も 終りに近く 麦青む

旅日記 書き終えて見る 花海棠 はなかいどう

亡夫 つまの地図に 書き入れてあり 春の雲

【俳句】

一. あるじなき 銭湯に咲く タチアオイ

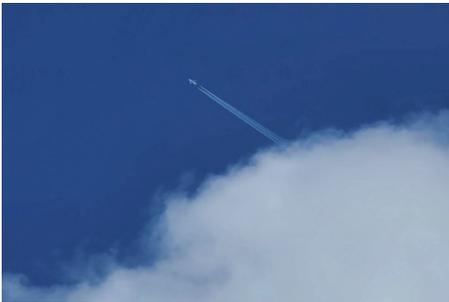
二. 午後六時 まだ明るくて 鯉のぼり

三. 雷雪なら 食べて良い訳なし 即席麺

四. どこいけど 同じ躓き ウルフムーン

988 真柄 百合子

5095 山口 みどり



撮影 安里 駿佑

【俳句】

一. 龍のごとく 揺られし土に 空を割る

二. 陽春の 嵐はあれど 花は咲く

三. 水仙の 気高き香り ついて行く

四. ツツジ咲く 春の嵐と 青い空

五. 立葵 石割りてなお 上を向く

【俳句】

蝸牛 かたつむり 後にのこせし 道しるべ

6277 濱田 裕紀子

6568 橋本 健次



撮影 安里 駿佑

【短歌】

秋風に ゆるる葉ずれの おとさやか
竹のみどりは 隅にてりはえて

野に山に 桜花咲き乱るる 関ヶ原
倒れし人の 魂なくさめて

嵯峨野路に 桜花をもとめて あちこちと
落柿舎により 濃茶いたたく

【短歌】

兄の死を詠う

肺気腫で 逝きたる兄は 育ちたる
座敷に眠り 我を迎える

百斗の 家守り未し 兄逝きて
義姉に託さん これからのこと

穏やかな 春近けれど 二・二六
時止まりたり 兄みまかりて

信濃路は 桜満開 晴れ渡り
祝詞がひびく 兄の納骨

4963

津田 典男

5296

栗原 百合子

【短歌】

生け花を 友と携え 五十年
その友今は 病と戦う

幾つもの 病がおそう 友なれど
生きる力を 花に求めん

病室で 竿後の別れ 添い寝した
亡夫の温もり 今も感じぬ

手術より 一年経過 あと四年
生存率を 我は生きんと

「おめでとう！」 一万歩クリアしたと
携帯電話が 祝つてくれぬ



撮影 安里 駿佑

6418

日水 操

【短歌】

会堂に ひびく鐘の音 読経さき
天に登りし夫をみており

6466 市野 桂子

号泣す 耳に聖なる 声きこゆ
医師の姿 尊きものよ

一筋の 神経続く その先に
輝くまなこ 医学生あり

新たなる 医科歯科大の 変容に
みとりし部屋の 面影いずこ

【五行歌】

1304 中村 和子

一、しずしずと

初日の出の時間がせまる
海岸にいならぶ人びとの
指先が一斉に動く

新しい年の幕があいたのだ
(湘南・辻堂海岸より、江の島をのぞむ)

二、海岸でゴツゴツとした

小石をひろった
手にとってみるととても軽い

遠い海の底から
流れついたのだろうか

三、ごはんが炊けた
おにぎりつくろう

具材は昆布と梅干しだ
一つ一つ心をこめて
ほどけないようにしっかりと

四、スーパーのたなに

黄色のマクワウリが並んだ
亡母ハハの声こゑが聞こえたようだ
「和子や、ナシの皮はうすく
ウリの皮は厚くむくんだよ…」

五、大空に舞う

白い雲とかくれんぼをした
ふわりふわりと逃げかくれする
ふりむくともういない
黒い雲が出番を待っている



撮影 陳 菲

【絵日記】

5853 片桐 千代子

イラン・ヤズド
沈黙の塔 ゾロアスター教 鳥葬の場

イラン中央部のヤズドは、世界最古の宗教のひとつであるゾロアスター教の聖地であります。郊外には、ゾロアスター教の墓場・鳥葬の地「沈黙の塔」がございます。ここはゾロアスター教徒の遺体を葬る「鳥葬」の場所でもあります。

ゾロアスター教徒は火・水・土を神聖なものとし、それらを汚す土葬や火葬を嫌ったため、鳥葬という葬制をとることとなりました。

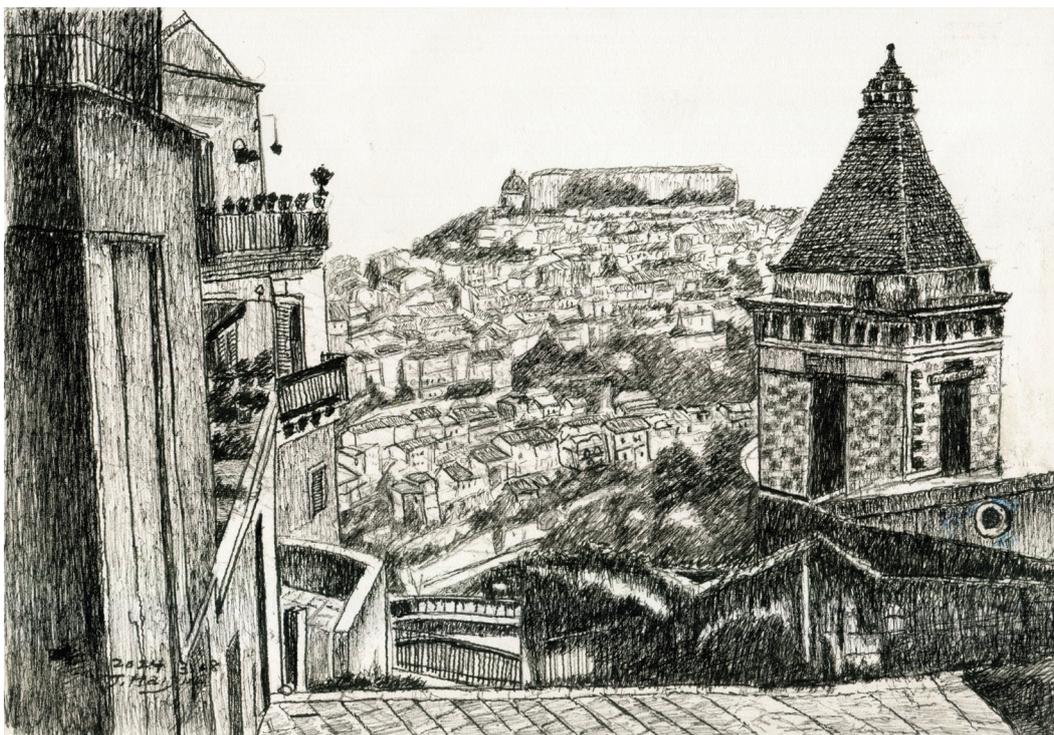
現在はこの塔にも実際に登ることができ、様々な観光客も訪れています。そこから遠方に見えるヤズドの町の眺めはとても良いです。



【絵画】

6068 範島 時雄

シチリア島ラグーザ新市街からイブラを望む



《解剖学実習を終えて》

学生感想文

※「東京科学大学臨床解剖学分野」のホームページにて、令和六年度の学生感想文を公開しておりますので、ご覧ください。

解剖実習を終えて感じたこと

医学部医学科二年 五十嵐 咲絢

はじめに、献体してくださった方々およびそのご遺族をはじめ、解剖実習にご協力くださった全ての方々に心から感謝申し上げます。

実習に臨むにあたり、授業動画を視聴し、グレイ解剖学や人体解剖カラーアトラスを参照しながら実習資料の予習を行いました。一回目の解剖実習の前には、「これだけ予習をしたのだから、きっと剖出しなくてはならない構造を剖出できるだろう」と考えていました。しかし、実習が始まると、これが甘い思い込みであったことに気づかされました。体の構造には個人差がありますし、何より教科書には二次元で構造が描かれています。頭の中ではわかっているつもりでも、いざご遺体を解剖してみるとうまく剖出できない自分に、情けなさを感じました。それと同時に、解剖実習の大きな意義を感じました。解剖実習がなければ、私は教科書を読んだだけでわかった気になって満足していたでしょう。解剖学は、将来どの診療科に進むためにも必要です。今回の解剖実習でからだの構造を実際に見て学び、その奥深さを実感できたことは、私にとっての財産です。実習での経験を忘れず、献体してくださった方々に恥じない医師になれるよう、これからも精進して参ります。

献体が繋ぐ命の輪

医学部医学科二年 植田 幹也

この度は献体してくださった方、またご遺族の方々に、心より感謝申し上げます。皆様のご厚意により、私たち医療関係者は医学の進歩に大きく寄与する貴重な機会を得ることができました。

想像力と常識に欠けお恥ずかしい話ですが、私は解剖学の授業を受けるまで献体の会の存在やご遺体の提供がどのように成り立っているのかを詳しく知りませんでした。しかし実際にご遺体を解剖させていただき、この献体の仕組みがいかに医療を支えている大切なものなのかを痛感しました。解剖学実習はおそらく多くの医学生が実際のご遺体を目で見て手で触って勉強できる唯一の機会であり、座学では決して理解できないことを学べる場です。そして私を含め個々の医学生への解剖学への理解は医療を支え、将来的にはるかに多くの命を救うことに繋がっていきます。まさに献体は命の輪を繋いでいく仕組みです。

この素晴らしい仕組みにご遺体の解剖で関わった身として、私自身もこの命が尽きた日には献体したいと検討し始めています。命が命を救うこの尊い輪を繋いでいくべきだと心から思っています。

あらためて献体してくださった方またご遺族の方々、ありがとうございます。

得がたい経験

医学部医学科二年 大竹 春生

今回献体をしてくださった方、またそのご遺族の方々、誠にありがとうございました。医学書や座学の授業のみではなかなか得ることのできない、「実際に触れて、肌で感じて学ぶ」という貴重な経験をすることができました。この経験は私にとってとても新鮮なもので、人体への理解をかなり深めるきっかけになったと感じています。

また、この解剖を進めていく中で、今生きて解剖をしている自分たちと、ご遺体として解剖されている方との距離がとても近く、死というものがとても近くにあるように感じました。つい数か月前までは命があった身体を使わせていただいていること、またこれからは命を扱うような、日常と比べて生と死がとても近くに存在する職業に就くことを改めて実感させられるような実習であったと思います。このような体験はなかなかできるようなものではないと実習中も、そして実習が終わった今でも強く感じています。改めて、この度は私たちにこのような尊く貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

解剖学実習を終えて 謝辞

医学部医学科二年 小倉 夕季

献体をしてくださった方々、そのご遺族の方々ならびに献体の会の会員の方々には、この度解剖学実習という医学生として大変貴重な学びの機会を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

解剖学実習は事前に講義や教科書を通して人体の構造や機能を学んでから行いましたが、実際の人体では教科書で見た構造を確認できない解が深まることもあれば、血管の分岐の仕方など教科書通りではない構造も多々あり人体の複雑さを改めて感じることも多かったです。

また、ご遺体を解剖することを通して、人体の構造への理解が深まっただけでなく、医師が人の命とその想いと向き合う職業だということも改めて学びました。毎回の実習前に黙祷を捧げるとき、納棺式で献体をしてくださった方の副葬品を拝見したとき、皆様が医学の発展を願う大切な想いを私たちに託してくださいましたことを強く感じ、それを決して忘れぬよう実習に取り組んでまいりました。

今回の実習で学んだことを糧にこれから先、患者さんとその周りの方々と真摯に向き合える医師を目指してまいります。

最後になりましたが、解剖学実習にご尽力を賜りましたすべての皆様へ重ねて厚く御礼申し上げます。

最初で最後の人体解剖

医学部医学科二年 北沢 都夢

高校時代「医学部に行きたい」と友人や家族に話すと必ず「血とか見られる人なの？」と言われた。その時自分は毎回「多分大丈夫かな」とやんわりとした答え方をしていた。

実際に解剖実習が行われると、正直ぞつとした。このシートの下にご遺体がある、と想像しただけでも恐ろしさを感じてしまった。シートを捲り上げる時の、その場の緊張感は今でも忘れられないものである。

実際解剖が始まっていくと一つ一つの身体の作りの精巧さに感動した。ここで詳しく述べるのは控えるが、一つ一つの神経、血管、臓器、骨等がすべて合理的に出来ていることに驚きを隠せなかった。こうして驚嘆している間は、ぞつとする気持ちなど一切なかった。その時は夢中になって他のことなど一切考えられなかった。学びとはこういうものなのかと知った。

机上の空論という言葉がある通り、どうしても紙とペンで学べることには限界がある。こうした実習を用いることによって初めて学べることは多いし、濃い。

ご遺体から学ばせていただいたことをこれからの医学に役立てたい、と強く感じた実習だった。

人体解剖実習から学ぶ「人間とは」

医学部医学科二年 大保 陸

はじめに、献体してくださった方々及びご遺族の方々に心より感謝を申し上げます。人体解剖実習を通して、実際に解剖する以外では得られない解像度で人体の構造について理解をすることができました。

私は実習に臨むにあたって講義や教科書を通して知識を深め、実習手順については最善の注意をはらって予習を行いました。しかし、実際に解剖を行うと人体の複雑さに驚かされるばかりでした。教科書のみでは分からないことがほとんどで、それを一つ一つ理解していくことに感動を覚えました。

また、人体の構造を理解すると同時に生命の尊さをも実感しました。献体してくださった方々がこれまでどういった人生を送ってきたか、どのような思いで協力をしようと考えたのか。そのように考えると感謝の気持ちに満たされ、初めてメスを入れた瞬間はこれまでの世界観が一変するような経験でした。

医師になる上でこの三ヶ月で身につけた解剖学の知識や生命に対する価値観は欠かすことのできない財産となりました。この様なかけがえのない経験ができたのは協力してくださった皆様のおかげです。皆様の期待に応え、世界を変えられる医師になれるよう日々努力します。

私たちが担う医療

医学部医学科二年 多田 大輝

解剖学実習という貴重で学びの多い機会を賜り、ご献体くださった方に心より感謝申し上げます。

私は過去に祖父が白血病に罹った経験から、臨床と研究の両面からがんの治療に携わることのできる医師になりたいと思っています。解剖学実習では、ご遺体の解剖を通して人体の様々な構造を、肌をもって学び、教科書やアトラスとは全く異なる理解を与えてくれました。果てしない事前予習と知識をもつてしても、実物に触れ、メスを入れることで得られる想念、了知には到底敵いません。実習で得られた実感と理解は、私たちそれぞれが掲げる医師像への道を開く鍵となったことを確信しています。

実習前の黙祷を繰り返し、眼を瞑るたびに、私は命の尊さと重さを胸にやきつけ、人々の命を預かり救う医師になるのだという覚悟が強くなっていくようでした。私たちが担う将来の医療への希望、期待からご献体くださった方とご遺族の方、そしてその道を示してくれた東京医科歯科大学の先生方、ともに研鑽に励んだ学生の皆様に重ねて感謝するとともに、そのご期待に添えるよう、これからも不撓不屈の努力を重ねていく所存です。

重み

医学部医学科二年 山崎 和奏

はじめに、献体してくださった方、そしてご遺族に心よりのお悔やみと、今回の私たちの実習において献体してくださったことに心からの感謝を述べさせていただきます。

この実習では、教科書だけでは学びきれないことをたくさん学ぶことができました。ここでの学びは、将来、医師として働く上で大きな意味を持つと確信しています。

実習が始まった頃は、実習に慣れていくことが、献体してくださったことへの重みを感じづらくなっていくことを意味するのではないかと思います。不安を感じていました。しかし、その重みを感じ続けた実習期間でした。その理由の一つとして、祖父の死があります。私は実習期間の途中で祖父を亡くしました。そこで、医療学生の学びのために、献体をしよう、と決めることが、いかに大きく重い決断であるかを知りました。そして、さらに感謝の気持ちが強くなりました。

私自身ができる恩返しは、この実習での学び、感謝を持って、医学生として勉強に励み、医師として多くの患者さんを救うことだと考えています。そのことを忘れず、今後医療に全力で向き合っていこうと思います。

解剖学実習を終えて

医学部医学科二年 永田真結子

はじめに、今回の実習にあたり献体をしてくださった方々、ならびに大切なご家族を私たちにお預けくださったご遺族の方々に心より御礼申し上げます。

実習では人体の複雑さに圧倒されることばかりでした。予習して臨んでも組織の剖出や特定が上手くいかない状況の連続で、その度に情けなく申し訳ない思いでした。班員や先生方の助けを得ながら各組織の位置関係を自分の中で再構築できた経験は、今後の学びの基盤になると感じております。無数の組織が連動して作り出す命に奇跡を感じるとともに、少しでも組織を傷つけば重大な結果を引き起こしかねないという医療の仕事の重みも痛感しました。こんなにも複雑な人体構造を体系化してきた先人たちの苦労や努力を噛み締めつつ、その末端に立った者として医学の発展に貢献していく所存です。

実習中は、人生の最後を私たちに託してくださいました方々が歩まれた道のりや、どんな思いで献体登録をご決断されたのかについて考える機会が何度もありました。その思いに恥じぬよう、今回の経験を無駄にせず立派な医師となるため精進してまいります。

改めまして、この度は貴重な機会をくださり誠にありがとうございます。

学生の正直な気持ちを考えてみた

5482 広田 順子

今年も本誌の編集をお手伝いしている役得で、学生さん達の感想文を一足先に読ませていただきました。

解剖実習の感想文に対しては、以前から「紋切り型の表現ばかり」「毎年同じような文章」との厳しい声があることも承知しています。

一部とは言え、そういうご意見があることにも配慮して今年も選抜したつもりです。

私自身は、献体登録者であり、かつ解剖見学経験者でもあります。ですから、何となく双方の気持ちに分かる気がするのです。

まず、考えてみてほしいのですが、感想文を書く学生達は二十歳かそこらの若者です。大人に向けた文章を書くのは、おそらくこれが生まれて初めてでしょう。

彼らが真っ先に思うのは「失礼があつてはならない」ということだと思ふのです。失礼にならないためにはどうするか。そこで登場するのが定型文であり、先輩の前例です。型を逸脱しなければ、少なくとも失礼はない。それが若者の精一杯の配慮というものでしょう。

読者の中には「そうは言うが、自分が二十歳の頃には、もっとみずみずしく心を打つ文章が書いていた」とお考えの方もおられるかもしれません。

だとしたら、その方は文系の頭脳をお持ちなのです。一方、医学部の学生は、少なくとも理系寄りの頭を持っていてる筈です。細かい感情の機微を巧みに表現する才能には欠けるとも言えます。もちろん、中には理系でありながら文才のある学生もいますが、全員にそれを期待

するのは酷なように思います。文系の私に化学式を解けと言われるくらしいの難問かもしれません。

さらに、解剖実習の詳細は、なかなか外部の方には伝えにくいという側面もあります。

解剖は、目的に従って進められます。例えばある日の実習は「まず胃を見つけて、そこから下部消化管を辿ります」というミッションだったとしましょう。学生はメスを持って腹部を切開し、胃を見つけようとしています。イラストや人体模型の内臓を思い浮かべる学生達にとって、「本物」の人体は少々厄介です。皆様は、胃とは肋骨の下あたりにある、ぷっくり膨れた形だとイメージなさるでしょう。しかし、実際は胃下垂で骨盤の方まで落ちていることもあり、形も様々です。

胃一つ見つけるのも、学生にとつては一苦勞。教科書が絶対正しいと信じてきた彼らは実物を前にして目を疑い、ご遺体が「間違い」とあると考えます。ところが、隣のご遺体もまた違った形であることを知り、混乱するのです。

また解剖学の教科書では、分かりやすく「動脈は赤、静脈は青、神経は黄色」と描き分けられていますが、実物にはそんな色の差はなく、筋膜の間のくっつきなのか、脂肪と臓器の間の線維なのか、神経なのかの差も、慣れないと識別はできません。

学生たちは、頭の中の解剖図と、実物の差に毎回混乱しながらも二十回近い実習を進めていくのです。

当たり前ですが、ご遺体には自然回復力はありません。誤って傷つけてしまったメスの跡は、変わらず毎回そこに静かに存在し続けます。医療の現場では、少しのミスが大変なことにつながることを、ご遺体は無言のうちに突き付け、教えてくれるのです。

実習が終わる頃、学生は「解剖が化学ではなく、自然科学である」ことに気づきます。人間の体内もまた自然物であり、あるものがあるがままに観察することから始まるのだと。

その境地に至ると、解剖は毎日が「発見」に変化してきます。自らの発見に心躍らせ、改めて教科書を見る時「なるほど！いろいろな個人差があるが、概ねこの通りだ。よくまとめているものだ」と納得するのです。それが、人間の体に対する、認識の次元が変わる瞬間。「図式を頭に入れば、解剖はしなくても十分だろう」と思っていた「理系学生」が、「医者の卵」に羽化する時と言い換えても良いかもしれません。

私は医学生ではないので、解剖は許されず、見学することしかできません。その私でさえご遺体を拝見することで多くの学びがあり、ご遺体に感謝したからこそ、自らも献体を望んでいるのです。

ましてや、実際にメスを持ち、責任を持ってご遺体に対峙した学生がどれほど多くの学びを得、どれだけ感情を揺り動かされたかは計り知れません。

彼らの文章は言葉足らずかもしれませんが、きつと受け止めたものは一生忘れえぬほどのものだ信じます。ありきたりな言葉の裏側には多くの要素があり、献体してくださった方への感謝の言葉に嘘はないのです。

登録者の皆様には、どうか寛大なお心を持って、若者の学びを見守っていただきたいと願っています。

《東京科学大学（旧東京医科歯科大学）からのお知らせ》

◎大学統合に伴う本会名称の変更について

日頃より東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）の医学及び歯学教育ならびに篤志献体活動に対するご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

二〇二四年十月より、東京医科歯科大学は東京工業大学と統合し、「東京科学大学」となりました。この統合に伴い、本会名称も、二〇二四年六月二十九日開催の献体の会総会での承認を得て、「東京医科歯科大学献体の会」から「東京科学大学献体の会」に変更となりましたことをご報告申し上げます。

会員の皆様におかれましては、会員であることに変わりはありません。現在お持ちの登録証もそのままご使用いただけます。また、献体の会事務局および代表番号の連絡先につきましても、これまでと変更はございません。

なお、登録証を紛失された場合等で、登録証の再発行をご希望される場合は、「東京科学大学献体の会」の名称での登録証をお送りいたします。

今後とも変わらぬご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◎献体時のお引取り可能な範囲について

献体の会会報「けんたい」や献体の会総会において、以前よりお伝えしておりますが、献体時のお引取りに伺うことのできる範囲（お迎え先）を、東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）より四十キロメートル程度以内を目安とさせていただきます。お引取りに伺うことのできる地域については下記の表の通りです。

東京都	東京二十三区、立川市、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、西東京市、八王子市、昭島市、福生市、青梅市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町
神奈川県	横浜市、川崎市
千葉県	千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市、四街道市、印西市、白井市
埼玉県	さいたま市、川越市、川口市、所沢市、春日部市、狭山市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、八潮市、富士見市、三郷市、蓮田市、吉川市、ふじみ野市、白岡市、伊奈町、三芳町、宮代町、杉戸町、松伏町
茨城県	つくばみらい市、取手市、守谷市、利根町

したがって、お引越などによりお住まい（献体時のお迎え先）がこれらの地域よりも遠方となる可能性が高い場合には、お近くの大学の献体団体に転属していただくことを検討いただきたくお願い申し上げます。お近くの献体団体につきましては、献体の会事務局よりご紹介させていただきます。

しかしながら、お迎え先が範囲内の病院や施設、葬儀場などである場合にはお引取りできる場合がございます。ご不明な点がございましたら、献体の会事務局までお問い合わせください。

献体の会会員の皆様には、ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）への献体をご希望いただいた、そのお気持ちは大変ありがたく、ここに改めて関係者一同より御礼申し上げます。何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

◎住所変更等の連絡のお願い

住所、氏名、電話番号、ご家族の連絡先等が変更になった方はできるだけ早く献体の会事務局まで、お電話または文書等によりご連絡をお願いいたします。

会員ご本人様が前述のお引取り可能な地域よりも遠方へ住所を移される場合には、お近くの大学の献体団体を紹介する場合がございます。お近くの献体団体につきましては、献体の会事務局より該当する献体団体をご紹介させていただきます。また、お亡くなりになった後に他の大学にご紹介することは、非常に難しいため、住所を移される場合には献体の会事務局にご相談いただきたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◎献体手帳について

二〇二五年「献体手帳」をご希望の方は次の要領でお申し込みくださいますよう、よろしくお願いいたします。

「献体手帳の申し込み方法」

お名前・会員番号をご明記の上、送料として一一〇円分の切手を同封の上、郵便にてお申し込み下さい。お申し込みは、お一人様一冊とさせていただきます。

なお、ご家族で会員の方が一緒に申し込まれる場合、二冊分は一八〇円分切手となります。三冊以上の方は事務室へお問い合わせください。

※郵便料金改定に伴い、切手料金が昨年までの料金から変更となりました。ご了承ください。

申込先

〒一一三―八五一九 東京都文京区湯島一―五―四五

東京科学大学献体の会事務局

電話 〇三―五八〇三―五一四七

《会員のご家族へのお願い》

会員の方が亡くなられた時は、次の順序でご連絡と打ち合わせをお願い致します。

一、大学への電話連絡

◎平日 午前八・三〇～午後五・〇〇

①東京科学大学献体事務局(直通) 〇三―五八〇三―五一四七

②東京科学大学(代表) 〇三―三八一三―六一―

平日の勤務時間内出来るだけの対応を致しておりますが、直接献体事務局に連絡をいただいた時、学内に出かけている場合がございます。その時には大学(代表)の電話交換手にその旨をお伝え下されれば、こちらから再度ご連絡申し上げますので、ご遺族代表者の連絡先及び亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時をお知らせ下さい。よろしくお願い申し上げます。

◎夜間・土曜・日曜・祝祭日・年末年始

東京科学大学(代表) 〇三―三八一三―六一―

夜間、土曜、日曜、祝祭日、年末年始などの場合は、大学の電話交換手にその旨お伝え下されれば、担当者の携帯電話に連絡がつく態勢になっております。その際、亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時・連絡先・連絡者を必ずお知らせ下さい。担当者が学外におります場合には、東京科学大学献体の会の会員であることをすぐには確認できませんので、ご連絡の前に会員であることを再度ご確認頂きますようお願い申し上げます。なお、迅速に対応できるような態勢をとってはおりますが、諸事情(電波受信の状態が悪いところにいる場合など)により担当者からの連絡が遅れる場合がございます。大学から、担当者へは連絡がつくまで対応いたしておりますので、ご容赦願います。

二、大学担当者との打ち合わせ

ご遺族の代表者は次のことを担当者と打ち合わせて下さい。

- ① 大学がご遺体をお迎えにあがる日時
- ② 大学がご遺体をお迎えにあがる場所（住所・電話番号）
- ③ お棺持参の要否
- ④ ご遺族代表者の氏名、住所、電話番号
- ⑤ 「解剖に関する遺族の承諾書」等の書類は、担当者が後日お送り致しますので、ご記入、ご捺印をお願い致します。
- ⑥ その他：お通夜、告別式をなさる場合にはその日時・場所をお知らせ下さい。なお、ご遺体の移送は大学がお引き受けし、寝台自動車でお迎えに上がります。

三、ご家族に用意していただく書類

○ご遺体移送のときに必要な書類

- 死亡診断書の写し 一通
- ・ 死亡診断書の写しをご用意下さい。ご遺体を寝台自動車で移送するときに必要になります。
- 後日、郵送していただく書類
- 埋葬・火葬許可証 一通
- ・ 埋葬・火葬許可証は担当医師の死亡診断書を添え「死亡届」を市区町村へ提出すると交付されます。
 - ・ なお、火葬予定場所には「渋谷区代々幡斎場」とご記入下さい。

※注意事項

次のような場合、献体をお断りすることがありますので、ご了承下さい。

- ① 事故で亡くなられた場合（交通事故死、水死、焼死、災害死など）
- ② 死亡後、時間が経過し発見が遅れた場合

③ 病理解剖や法医解剖によりご遺体にメスが入った場合

④ 大学から遠方で亡くなられた場合

⑤ 大学から遠方へ転居され、住所変更のご連絡がないまま転居先で亡くなられた場合

④⑤につきまして、詳しくは《東京科学大学からのお知らせ》をご覧ください

⑥ 死亡後、臓器提供をされた場合

⑦ 重症感染症（新型コロナウイルス感染症を含む）に罹患し亡くなられた場合

右記に該当する可能性のある場合は、担当者にお知らせいただきませう、よろしくお願い申し上げます。

《東京科学大学献体の会(旧東京医科歯科大学献体の会)会則》

(名称・事務所)

第一条 この会は、東京科学大学献体の会（以下「本会」という。）と称する。

第二条 本会の事務所は、東京科学大学医学部に置く。

第三条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、医学及び歯学の発展と人類の福祉に貢献するために、会員の遺体を無条件、無報酬で東京科学大学に寄贈することを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 篤志献体に関する広報活動
- (2) 親睦会の開催
- (3) 講演会及び集会の開催
- (4) 会報の発行

- (5) 献体者の慰霊
- (6) その他本会の目的達成のため役員会において適当と認めた事項

(会員)

第五条 本会の会員は、第三条の目的に賛同し献体登録した者とする。ただし、この趣旨に反すること、又は本会の品位を著しく傷つける行為のあるときは、役員会において役員の方の二以上の議決により、会員の登録を取り消すこともある。

第六条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 二名
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 二名

2. 理事となる者は、役員会で選考し、総会の承認を得る。
3. 理事の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 会長及び副会長は、理事の互選とする。
5. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
6. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。
7. 理事は、役員会を構成し、会務を遂行する。
8. 監事は会計を監査するほか、役員会に出席して意見を述べることが出来る。

(会議)

- 第七条 本会の会議は、総会及び役員会とする。
2. 総会は年一回開会し、会長がこれを招集し、その議長となる。
3. 総会においては、次の事項を審議する。

- (1) 会の運営及び事業に関する事項
- (2) 理事の承認
- (3) その他の事項

第八条 役員会は、会長が必要と認めるとき随時開催し、次の事項について審議する。

- (1) 会の運営及び事業計画
- (2) 収支予算に関する事項
- (3) 会の決算及び事業報告
- (4) その他会長が必要と認めた事項

2. 役員会の議事は、出席者の過半数をもって議決する。

(顧問及び相談役)

第九条 本会に、顧問及び相談役を若干名置くことができる。

2. 顧問及び相談役は、学識経験者、理事退任者の中から理事会に諮り会長が委嘱し、必要に応じ理事会に出席し意見を述べる。

(会計)

第十条 本会の経費は、補助金、寄付金等をもってこれに当てる。

2. 会の会計年度は、四月一日から翌年の三月三十一日までとする。

(その他)

第十一条 本会則の改正は、総会の議を経て定める。

附 則

この会則は昭和五十九年四月二十一日から施行実施する。

この会則は昭和六十二年四月十八日一部改正実施する。

この会則は平成十四年四月一日より改正実施する。

この会則は令和六年十月一日より改正実施する。

《東京科学大学献体の会(旧東京医科歯科大学献体の会)役員》

会長	八一〇	佐藤達夫
副会長	二二七二	星野君枝
理事	九二二	宮内美栄子
理事	二七四二	片野尚子
理事	四五六二	飯田静夫

献体の会会報編集委員

五二三九	岡本祐子
五四八二	広田順子

《会報製作にあたって》

◎表紙の写真説明

春

大学院医歯学総合研究科

修士課程一年 陳 菲

「春」は、都立汐入公園の桜とヒヨドリを撮影した一枚です。撮影日は、二〇二四年三月下旬、新型コロナウイルス感染症による外出自粛も過去のものとなり、外国人観光客を含め多くの人々が桜を見に都立汐入公園を訪れていました。あいにくの曇り空でしたが、公園では新品のランドセルを背負った子どもたちが桜の木の下で嬉しそうに写真撮っている様子が見られました。新しい学校生活への期待に胸を膨らませている様子は、非常に微笑ましいものでした。

二〇二四年十月、東京医科歯科大学と東京工業大学の統合により東京科学大学が誕生しました。「科学の進歩と人々の幸せを探求し、社会とともに新たな価値を創造する高度専門人材を輩出する」という理念のもと、東京科学大学は、昨今の社会課題解決に取り組み、より良い未来を切り開いていきます。

そして、春は変化と成長、始まりの象徴です。寒い冬を乗り越えて新しい命が芽吹き、成長するように、私たちの大学もまた新たな可能性と希望に満ちた未来に向かって歩み続けることでしょう。一学生として、このような大きな変革に立ち会えたことを非常に嬉しく思います。

◎編集後記

今回の表紙は春。花の下は入学式か、卒業式か。親子の時間は長いようで短く、お互いを思えばこそ、言葉にできない思いもあります。映画『砂の器』（野村芳太郎監督、昭和四十九年）にも、そんな親子の場面がありました。

満開の花の下をゆくお遍路姿の父子。編み笠の父、本浦千代吉（加藤嘉）は金剛杖をつきながら、左脚を少し引きずるように進みます。その傍らを、六、七歳ばかりの息子、秀夫（春田和秀）が歩いていきます。次は鯉のぼりがはためく村。高台に立つ子が見つめる先には、校庭で体操をする子どもたちの姿が見えます。次は夏の川。ランニング姿の子が、砂で作った器をいくつも並べていきます。やがて冬。父の病状は進み、子の手に引かれながら、時に屋根のないあばら屋で身を寄せ合います。病のせいで石を投げられ、動けなくなった父子の前に現れたのが、駐在所巡査の三木健一（緒形拳）です。しかし、この出会いが療養の名のもとに父と子を引き離し、ついには秀夫も三木の家を飛び出してしまいます。

二十年後、事件が起こります。被害者は三木。三木が東京まで会いに来た男を追う警視庁警部、今西栄太郎（丹波哲郎）は、それが天才作曲家兼ピアニストの和賀英良（加藤剛）であることを突き止めます。警部は瀬戸内の療養所で、千代吉に和賀の写真を見せて聞かれます。「知らないか？」否定する千代吉にさらに「心当たりはないか」とたたみかけます。「ううう、あああああ、し、知らねえ、えああ。」

故郷を追われ、失ったもの。それは子どもらしい生活、家族で囲む食卓、一つ屋根の暮らし。お互いを思うがゆえに、親であること、子であることを手放さざるを得なかった宿命。今、ピアノの音がホールに鳴り響きます。

ぜひ、改めて表紙からお楽しみいただければ幸いです。（片野尚子）

連絡先	
発行	東京科学大学献体の会
	〒一三三―八五一九 東京都文京区湯島一―五―四五
電話	〇三（五八〇三）五―四七
FAX	〇三（五八〇三）〇―一六
印刷所	小宮山印刷工業株式会社
電話	〒一六二―〇八〇八 東京都新宿区天神町七八
	〇三―三三六〇―五二一一